

そうま かえる 新聞

福島県相馬市・南相馬市の今とこれからを伝えるコミュニティペーパー

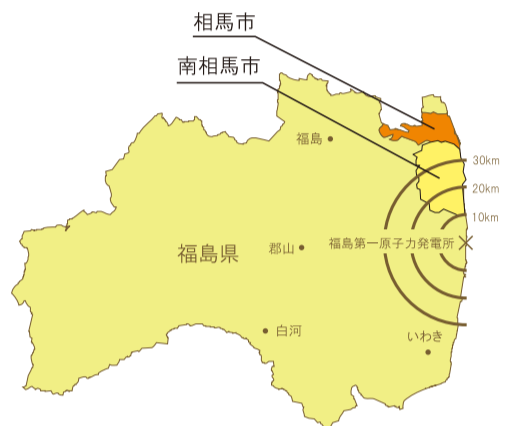
「そうま・かえる新聞」
2014年 11月 第17号

発行所: そうま・かえる新聞編集部
〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3 モリタミュージック内
問い合わせ・配達希望: somakaeru@yahoo.co.jp

子どもたちに明るい未来を手渡すため、
わたしたちは生き方を「変える」。
いのちを何よりも大切に「考える」。
まちをゲンキに「変える」。



http://soma-kaeru.com/



★そうまなぞぞ 方言編 その10
「ごせやける」ってなーんだ?
例「あーもう、本当にごせやける父ちゃんだ!」



『そうま』の今 肌で感じて 被災地ツアーと「うたのありがた」

▲自立研修所「えんどう豆」でバッジ作りを体験する参加者たち

そうま・かえる新聞は発刊以来、初めての主催ライブとしてミュージシャンのリクオさんとソウル・フラワー・ユニオンの中川敬さんの全国ツアー「うたのありがた2014」の南相馬公演を10月12日、南相馬市の朝日座で開きました。ライブの開演前には、東電福島第1原発事故の影響で、現在も住むことができない南相馬市小高区をバスで巡る「被災地ツアー」も実施。参加者に津波被害の現場や住民が住んでいないまちの現状を見てもらいました。(タカノシンジ/南相馬市)

缶バッジ作り体験

被災地ツアーは、かえる新聞の初めてのイベントだからこそ、「ミュージシャンによる演奏だけではなく、『そうま』を理解してもらうための企画にしたい」との思いで計画しました。

宮城県から兵庫県まで、約20人が参加したツアーは、JR原町駅前をスタート。まず、自立研修所「えんどう豆」に向かいました。えんどう豆は、福島第1原発から約25*の地点にあります。2011年の原発事故から約半年間は、緊急時に避難が必要のため、自力で避難できない人は立ち入れない「緊急時避難準備区域」に指定されていました。そのため、障がい者の作業所のえんどう豆は、当時は一時閉所していましたが、避難できなかった(または避難から戻ってきた)通所者が多かったため、11年の早い段階で施設を再開しています。

ツアー当日が日曜だったため、施設の利用者はいませんでしたが、佐藤定広所長が参加者にスライドを用いて、震災後の歩みを説明。震災後に取り組んでいる「缶バッジ」の制作を紹介し、参加者にもバッジ作りの体験してもらいました。

その後、道の駅南相馬で、昼食を取りました。道の駅

に隣接する「高見公園」には、南相馬のボランティア団体「みんな共和国」が整備した子ども向けの遊具や「じゃぶじゃぶ池」があります。この日もたくさん子どもたちが遊んでいました。

昼食後は、南相馬市原町区の北泉海浜総合公園に向かいました。ここでは、放つてキャンプ場や子どもの遊具施設、入浴施設などが一体的に整備されていた場所です。夏になると、家族連れの海水浴客が大きな賑いを見せていました。しかし、今は津波被害で当時の面影はありません。この日は、数人がサーフィンを楽しんでいました。

生活音のないまち

続いて、南相馬市小高区に向かい、JR小高駅前と商店街、今年4月に外来診療を再開した小高病院など回りました。小高区の多くは放射線量が低い「避難指示解除準備区域」のため、泊まることはできませんが、区域内は自由に立ち入りができます。そのため、現在は郵便局や地元の金融機関「あぶくま信用金庫」、理髪店、厨房機器の工場などが営業を再開しています。

しかし、福島第1原発から20*圏内で今も避難指示



▲朝日座で演奏するリクオさん(左)と中川敬さん

が解除されていないため、住むことはできません。小高区には震災前約13,000人が住んでいましたが、今は全員が避難しています。生活の音が聞こえないまちなのです。原発が爆発すると、周辺のまちはどのようなになってしまうのか、知ってもらおうと、このツアーの一番の狙いでした。

最後に向かったのは、南相馬市原町区内の除染土壌の仮置場です。除染により削られた土が黒い袋に詰められ、各地域に設けられた仮置場に置かれています。今後、中間貯蔵施設に運ばれ、最終処分場で処理される予定になっていますが、貯蔵施設も処分場も建設地は決まっています。

2つの「満月の夕」

ライブ会場の朝日座には、ロビーにたくさんの写真を飾りました。かえる新聞の取材で撮影した写真や相馬野馬追の写真、そして、かえる新聞を配布し応援してくれている、全国の飲食店やライブハウスの写真などです。

リクオさんと中川さんの演奏は、激しい曲も、大正時代に建てられた会場のせいか、とても優しい音に聞こえました。2人とも、時には真剣に、時には笑いを交えて話しながら、最近出したアルバムを中心に披露しました。本編最後の「アイノウタ」では会場が一つになって大合唱しました。

アンコールは、「満月の夕」と「光」。この日のステージには、えんどう豆の佐藤所長が描いた満月の絵が掲げられ、その前で演奏する中川さんとリクオさんが印象的でした。今年7月には、この絵の下で山口洋さんと仲井戸「CHABO」麗市さんが同じく「満月の夕」を歌っています。この日、同じ絵の下で別々の2つの歌が一つに重なりました。

被災地ツアーに参加して



全力で遊ぶ子どもたち 石丸智子さん(宮城県)

2011年に放射能が降り注ぎ、今も人が生活することが許されていない地域をバスで訪れるツアー、何だかちょっと気が重いな、と思いがちの参加でした。何もできない私が参加することが不謹慎な気がしていたので、でも実際の南相馬市の空気は想像以上に澄んでいました。

北泉の海では形の良い波を見ました。見た感じ水もきれいそうです。波乗りしたいな、と思いました。

小高駅に停められたままの沢山の自転車は夕方帰って来る持ち主の高校生たちを待っているようです。

南相馬市の現状をお話して下さったそうま・かえる新聞の担当者も、えんどう豆の所長も全然熱くなく淡々と説明して下さいます。どこか牧歌的な心地よさを感じていました。

できるだけ明るい方向に目を向けていたのでも明るい場所だけを探していたのかもしれない。

お2人とも「原発が爆発」という表現が使われていたので、忘れられない体験をなさったのだろうと想像できました。「爆発」という言葉は生々しくて聞くと胸が痛みました。今は世間一般では「原発事故」という表現で済まされているような気がします。

小高地区では基準値を超えた放射線量が計測されていたのに雑草が呑気に生い茂っていて、それでも人が住むことはできないなんて空しいなと思いました。

とは言うもののやはり明るいほうに目を向けていたい私には、積み上げられた黒い袋よりも、高見公園の噴水の中を全力で遊ぶ子どもたちのほうが印象的でした。10月半ばなのに水浸しとは!久しぶりに見た子どもらしい子どもたちです。忘れられない光景になりました。



原発事故の終わらなさ 木村紅美さん(東京都)

南相馬市を訪れるのは、2013年11月、朝日座へ七尾旅人さんのイベントを観に来て以来。すっかり好きになった。原ノ町駅前に着くと、仙台から来た友人と合流。まずは自立研修所「えんどう豆」を見学。空は雲ひとつなく澄み渡り、スキの揺れる野原をいくら眺めていても、放射能というものを実感するのはとても難しい。

道の駅へ移動する途中、お城がふたつ、見えてきた。ラブホテルかと思いきや結婚式場。その駐車場に仮設住宅が村みたくにいらんでいる。仮設のすぐ手前は国道で、車がびゅんびゅん走り去る。お城を背景にした仮設住宅(洗濯物が干されている)……シュールな組み合わせだった。東京から来た自分としては、(ずっと反対だった)五輪をやる意味が、ますますわからなくなった。いまもあの光景を思い出すと、国立競技場を建てなおすより、まずはあそこに暮らす人たちのためにもっとまともな家を建ててくれ、と叫びたくなってしまふ。

災害がれきの入った黒い袋が広大に積まれた海岸に沿ってツアーバスで走る。山道の途中でふいに「ここから人の住めない区域です」とアナウンスされた。ほんの20分ほど前に美味しいメンチカツ定食を食べた道の駅は普通に賑わっていたのに!? 視界がぐんにやりに歪んだ気がした。

小高駅前バスを降り、商店街を散策。3年7ヶ月、放置された自転車や、立ち入り禁止のロープを張られたきれいな家(新築だったろう)、必ず戻ります、と黒板に白墨で書かれた字が自然に薄れてきている洋菓子店、家具が倒れて重なりあった家具店、お茶碗やお皿が積みあがった器屋、預かった洋服の吊り下がったままの薄暗いクリーニング店(カレンダーが11年3月のまま)などを写真に収めた。柔らかな陽ざしの降り注ぐ静かな通りを、法事で訪れたらしい喪服姿の一群とツアー参加者だけが歩いていた。

今も、このまちでは人の住める区域と住めない区域が溶けあっていることを、ほんの一瞬であるけれど肌で感じた衝撃、光景全て、頭の奥でぐるぐるし続けている。眼にも見えず、匂いもしないだけに、他の何とも比べようがないくらい厄介な、原子力災害の終わらなさが胸にのしかかっている。



やるせなさど悔しさ 能勢直子さん(宮城県)

個人的には3度目の被災地見学。南相馬の米作りの話を聞いた。米を作る収入よりも、米を作らない補償の額の方が7倍だったとしたら…。

当たり前だった日常に、こんな選択肢を突き付けられたとしたら、しんどいだろうと思う。自立研修所「えんどう豆」も元々は野菜作りがメインだったけれど、今はバッジ製作に。その体験をさせてもらい、小さなバッジにますます愛着がわいてきた。

小高駅前から続く商店街を歩いた。歩いたからこそわかる、歩道の歪み。あの3月がそのまま残るところも。郵便局や信用金庫のATMが稼働していた。利用もしないのに開けてみた自動ドア。ガーッと開閉する音が、妙に大きく響いて聞こえる街の静けさだった。

処分できずにそのままあるがれきと、病院内を除染したときに出た土が敷地内にとろろと置かれていた小高病院。黒い厚手のゴムで覆われた土は、ところどころ、中の空気を抜く筒のようなものが刺さっている。健康と安心を守る場所に、こういうものが置かれている矛盾。苦勞して探した看護師さん、それでも病院を訪れる患者さんの数は、1日平均4人。病院は修繕が必要で膨大な費用がかかると聞く。でも人の暮らしには欠かせない。

道の途中で何度か見た除染土壌の仮置場。黒い袋に詰められた土が、広い敷地に大量にある。その場所のすぐ近くに、家や果樹園を見た時のやるせなさど、悔しさ。

いろいろな気持ちに揺れ、音楽を聴く気持ちに切り替えるのが大変だったけれど、この日に聴ける音楽が、リクオさんと中川さんのものであって、本当に救われる気持ちだった。えんどう豆の佐藤所長が「音楽に助けられている」と語った一言がとても心に残った。

その場所で暮らす方が抱える葛藤を、わたしは想像することしかできないし、どれほど理解できているかわからないけれど、そうまへの心の距離がぐっと縮まった、大切な一日になった。



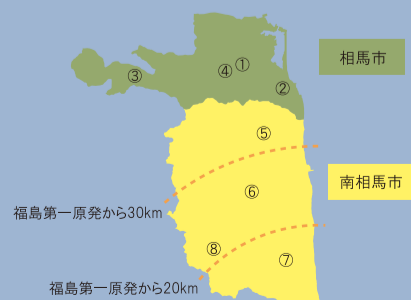
やり切れない想い 中野路代さん(東京都)

2011年秋に南相馬を初めて訪れ、当時は福島第1原発から20*圏内は立ち入りが制限されていて、ギリギリの所まで行きました。今回、当時、立ち入りができなかった小高区も案内していただけたことと、現状を見ておきたく参加しました。

南相馬市小高区は、3年半経っても未だ人が住めません。…なんとも哀しく、やり切れない想いが溢れます。そんな中でも、駅前でお花を植えている方に会ったり、少し町の機能の動きを感じられたりすることも。しかし、復興への道のりは遠いなども改めて感じました。

相馬市・南相馬市放射線レベル測定値 (2014年10月31日 単位=マイクロシーベルト/毎時)

①相馬市総合福祉センター(はまなす館)	0.237 (△0.011)
②磯部小学校	0.078 (△0.011)
③玉野小学校	0.265 (0.008)
④馬陵公園長友グラウンド	0.158 (0.006)
⑤鹿島区役所	0.201 (△0.006)
⑥南相馬市役所(原町区)	0.186 (△0.011)
⑦小高区役所(避難指示解除準備区域)	0.098 (△0.001)
⑧鉄山ダム(居住制限区域)	2.530 (△0.106)
東京(新宿区東京都健康安全研究センター)	0.034 (0.000)



カッコ内の数値は前号の数値からの増減です。各地のモニタリングポストでの放射線レベル測定値は、原子力規制委員会のホームページで公開されています。

国道6号 全線開通 カエルくんが行く

みなさん、お久しぶりです。カエルくんです。東電福島第1原発事故のため、「帰還困難区域」となり、通行規制が続いていた福島県沿岸部の国道6号(双葉町ー富岡町間、約14^{km})が9月15日、開通し、3年半ぶりに全線が通行できるようになりました。内陸部(中通り)へ大きく回り道していた時と比べると、相馬ーいわき間を1時間以上短縮できます。でも、これは喜ぶべきなのかな。だって、放射線量の高い場所を除染しての開通で、今も住民が避難している帰還困難区域を通るのです。さて、どんな状況になっているのか。レポートしてきました。(佐藤定広、石川和永/相馬市)



通行は自動車だけ



▲双葉町にかかる看板。標語は26年前に小学生が作った

まずは相馬市から出発です。相馬市から浪江町までの線量は0.2 μ Sv/h以下です。浪江町は全町民が避難していますが、町役場の前のコンビニが開いていました。

さらに進むと双葉町で、今回、開通した区間に入ります。通行できるのは自動車のみで、バイクや自転車、歩行者は通れないので注意が必要です。車の窓を閉めて、外に出ないようにとのことです。双葉町に入る所にあった検問所はなくなりましたが、帰還困難区域に入るためか、ガードマンが立っていて監視をしています。双葉町に入ると放射線量の値が、1.0 μ Sv/hを超えました。脇道への進入を防ぐバリケードが設置され、人の気配のない町は、悲しい光景です。町の通りには、「原子力明るい未来のエネルギー」の看板がかり、原発を受け入れてきた町の歴史を物語っています。

車内でも7.0 μ Sv/h超

大熊町に入ると、巨大な送電線が目に入ってきました。そして送電線の先には、イチエフこと福島第1原発の排気塔とクレーンが見えました。しばらく走ると、線量計が鳴り響き、車内の計測値で7.0 μ Sv/hを超えました。道路を削って除染をしたはずですが、さすがにドキドキします。



▲国道6号から見える福島第1原発(右奥)

これまで帰還困難区域内の通行は、復興事業者や避難区域の住民らの車両に限られていたのですが、住民から経済の活性化と復興につながるのの声があり、全面開通となりました。しかし、一方で、健康に対する心配をする人や、窃盗などの犯罪の増えるのではないかと懸念している人も多そうです。国は「不要不急の通行は避け、通行時は車の窓を閉め切ってほしい」と言っているのですが、完全に安全だとは言えないので、モニタリングポストがなく放射線量が表示されていませんので、ご注意ください。



▲原発付近で車内の線量計が鳴り響いた



▲帰還困難区域のため、二輪車や歩行者が通行できないことを伝える看板=富岡町

常磐道も全線開通へ

富岡町に入ると徐々に線量は下がってきました。国道6号から、常磐自動車道の常磐富岡インターチェンジに向かう県道(1.7^{km})も通行規制が解除されました。常磐道は、南相馬ー浪江(18.4^{km})などが12月6日に開通し、現在建設中の浪江ー常磐富岡間は2015年3月1日に開通させる予定です。常磐富岡料金所前に設置してある線量計は、4^{km}先の放射線量の値として2.35 μ Sv/hを表示していました。富岡町の国道6号には、緊急時に避難する方向を示した看板があり、高速道路の方



▲大熊町の熊地区の国道6号沿いのバリケード

に誘導されています。高速道路の整備により、物流が良くなり、復興には有利に働くと思いますが、子どもを連れての移動は迷ってしまいますね。富岡町の市街地は、避難指示解除準備区域で、昼間は立ち入りができます。JR富岡駅は海の近くにあり、津波の直撃を受けました。駅前の集落は、震災からそのまま車や家が破壊されたまま残っています。駅の向こうに、除染で出た廃棄物の黒い袋が、ピラミットのように積み上げられていました。以上、カエルくんのレポートでした。



▲JR富岡駅の近くにある廃棄物の仮置き場

そうま
×
東京

現在、「そうま・かえる新聞」や福島県相馬市・南相馬市応援プロジェクト「MY LIFE IS MY MESSAGE」には、全国に支えてくれる仲間が広がっています。このコーナーでは、そういった全国からの声を紹介していきます。

「相馬と僕。他人以上・恋人未満・・・」 口笛奏者 口笛太郎(東京都在住)

口笛太郎と申します。働きながら口笛奏者をやっています。大学を卒業して初めて働き出した会社で「相馬さん」という若い女性が出て、なかなか美人な方でした・・・なんて話も含めて、僕にとっての相馬はいい思い出ばかり。

震災以前から、モリタミュージックの森田文彦さんに呼ばれて口笛を吹きに行っていた。何度もお邪魔して演奏させてもらいました。おいしい食事と空気。東京と比べてちょっとだけゆっくり進んでいる時間。その中で音楽と文化を愛し、ちゃんとそれぞれの歩幅で前を歩いて歩いている人たち。

いろんなところで口笛を吹きましたが、何だか一番必要とされているように思える、居心地が良い場所になりました。たぶん僕はこの街にこれからも訪れるんだろうな、と。

美人の相馬さんがいた会社を3年で辞めて、音楽関係の会社で働き始めて20年経ち、考えるところがあって普通の会社に転職したときに2011年の3月を迎えました。

相馬を知る前の東北に縁もゆかりもない僕であれば「ショックだ・・・」だけだったのかもしれませんが、あの時はとにかく相馬のことが心配で、1週間くらい経って「太郎さんの知っている人はみんな無事だよ」と教えていただいたときは、職場でちょっとウルッとなったのは覚えています。その時に「相馬は自分の中ですごく大切なものになっているんだ」と気づきました。

震災以降は、口笛吹きとして東北のいろんなところに演奏やお手伝いに行き、見ていて悲しくなる状況も目の当たりにし、いろいろ考えると、いろいろ考えるところもあり、また音楽の世界に戻って働くことに



口笛太郎 ● くちぶえ・たろう

1966年、大阪・高槻生まれ。金融機関勤務を経てレコード会社に勤務。邦楽・洋楽のアーティストの制作やマーケティング手掛ける。一方、2000年以降より自身の口笛の活動を本格化。07年にギターと大里和生とともに「口笛太郎Duo」を結成し「風とギターケース」でデビューしてCDデビューしYahoo!のトップニュースに取り上げられたり、秋元康原作の絵本「象の背中」のイメージCDをプロデュースしたりするなど話題を呼ぶ。以降、アルバム「ジブリとギターと口笛と。」、「プレイズ・ビートルズ」を発表。様々なアーティストの楽曲やCMの録音にも参加。12年、東京五輪誘致の応援コンテンツとしてyoutubeに公開された「上を向いて歩こう」で全編に渡る口笛を披露。最近ではフォルクワゲン・ゴルフのCMや、NHK-B5で放映された火野正平出演の旅番組「にっぽん縦断こころ旅」のBGMの口笛などを担当。名実ともに「ファーストコール」の口笛奏者なのである。(ちょっと褒め過ぎたが本当なのだ！)

ひろがる つながる

そうま・かえる
新聞を配布して
くださっている
全国各地のお店
を紹介します

《マキノコ製作所》

手彫りの島ぞうり専門店です。自分自身に降りかかることのない「火の粉」を振り払うことはできず、その熱さを感じることは、とても難しいことです。ただ、今、生きている場所や、これまでの経験を、置き換えて考えてみることはできます。福島を思う時にはいつも、沖縄の米軍基地の在り方が重なり、胸がワサワサします。(マキノコ製作所 サイトウマキ)



SHOP INFORMATION
〒904-0314 沖縄県読谷村古堅 200 番地 B-132
☎098-956-3963
http://makinoko.net

編集部からみなさんのサポートに感謝を

全国のみなさんから、たくさんの愛のあるサポートをいただいて「そうま・かえる新聞」は発行されています。9/1~10/31までのサポートご支援(右記口座への寄付ご入金)は、174,700円です。ご支援、本当にありがとうございます。

そうま・かえる新聞は隔月に発行。
次号は2015年1月23日発行予定です。

「そうま・かえる新聞」はみなさんに寄付のお願いをしています。額の大小は問いません。全額を「そうま・かえる新聞」発行のための経費として使用させていただきます。寄付の際には可能であればメールなどでご連絡先(お名前、ご住所など)をお知らせいただけると幸いです。

- 郵便局からお振り込みの場合
口座/ゆうちょ銀行 記号/18290
番号/30483531
- 他銀行からお振り込みの場合
口座/ゆうちょ銀行 店名/八二八(読みハチニハチ)
店番/828 預金種目/普通口座 口座番号/30483531
口座名/そうまかえる新聞編集部



【そうま・かえる新聞】
2014年11月 第17号
発行元 そうま・かえる新聞編集部
http://soma-kaeru.com
連絡先 そうま・かえる新聞編集部
e-mail somakaeru@yahoo.co.jp

所在地 〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3
モリタミュージック内
編集 相馬市・南相馬市ほか有志
協力 かえる新聞(いわきの子供を守るネットワーク)
http://kaeru-web.com
★記事の転載や転用をご希望の方はそうま・かえる新聞編集部までお問い合わせください。